

## 第40回記念国際・全日本マスターズ 世界新、日本新の誕生でにぎわう

写真提供 / 日本マスターズ連合

9月13日から4日間、群馬・前橋市の正田醤油スタジアム群馬で開催された第40回記念国際・全日本マスターズ選手権大会。海外からの選手を含め、男女2231人が熱のこもったレースを繰り広げ、世界新2、日本新45、大会新は実に129と、実りのある収穫となった。熱戦を振り返る。

### レジェンド・トリオが魅せた 末續さんは100m10秒89

メインスタンドから大きな拍手が起きた。M35・100m 4組に末續慎吾さん(39歳・神奈川県)が場内アナウンスで紹介されたときだ。目玉の登場にスタンドが揺れた。2レーンからスタートを切った末續さんは、前半は抑え気味の走り。キックのクッションが脚に響かないか、慎重を期したようだ。次第にスピードを加速させた後半はさすが。100mのベスト10秒03を彷彿させる走りに、拍手が波打った。速報タイムは10秒89(-1.8)。10秒91を破る5年ぶりの大会新だ。

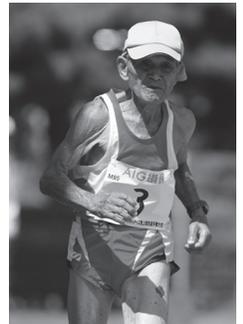
「M35の100mの日本記録は10秒66だった? う〜ん、風が向かいだったので。タイムはまたのときに」の後「マスターズは楽しいですね。私が走るのを見て、拍手を送ってくれる人が大勢いる。陸上の奨励にマスターズの存在は大きい。今後も協力できる機会があれば協力します」と話した。なお、末續さんの前回の鳥取大会での100mは10秒95だった。

前年の鳥取大会でM35・走幅跳に出て7m18を跳び、1位になった荒川大輔さん(37歳・大阪)。今回の上州路のピットでは7m06(-0.5)をマーク、1位は譲らなかった。大会記録は荒川さん自身の7m18。

「大会記録を伸ばそうと懸命に跳びましたが……。ちょっと風向きの方が定まらなかった」と残念がった。



末續慎吾さん(神奈川県)の五輪出場は2000年シドニー、04年アテネ、08年北京。北京五輪メダリストはM35・100mの大会新で盛り上げた



宮内義光さん(鹿児島)はM95・800mと1500mで世界記録を更新し、MVPに輝いた

2002年に8m06を跳び、日本人9人目の8mジャンパーとなった。その後、2007年の日本選手権でタイトルを取り、同年地元で開かれた第11回世界選手権の大阪大会に出場した。荒川さんはM35・走幅跳に7m33(2017年)の日本記録保持者。「年齢は上がっていくけど、目標(記録)に向かって頑張ります。マスターズ陸上は楽しいですね」。

2008年北京五輪の女子マラソン代表だった中村有梨香さん(33歳・兵庫)がW30・200mと走高跳に出場した。冒険心旺盛な中村さんは前回、W30・100mH(2位)、走幅跳(1位/出場1人)、やり投(4位)に出たが、今回は200mと走高跳にエントリー。200mはW35と合同でレースを。W30は中村さんだけで9レーンを走って32秒08(-2.6)。「向かい風で最後はしんどかった。緊張もしたけど楽しかった」。マラソン走者がなぜ短距離を? 「スタートして前の走者に

引き離されると、マラソンと違って挽回するのは難しい。(200mは)すぐ終わるから、しんどくない」と屈託がない。

走高跳は1m24から始まったが、いずれの試技も失敗。中村さんの冒険は終わったが、これはご愛嬌。次ほどの種目がターゲットだろうか。

### 95歳の宮内さんがMVP 2種目に世界新

第1日に95歳の宮内義光さん(鹿児島)がM95・1500mで10分10秒88の力走を見せ、12分16秒93の世界記録を大幅に破った。宮内さんの勢いは1500mにとどまらず、3日目のM95・800mでも5分02秒72でフィニッシュし、5分58秒15の世界記録を更新した。

文句なしでMVP(織田賞)に選ばれた宮内さんはM90・3000mと5000mの世界記録保持者でもある。今大会で新たにM95・800mと

1500mに宮内さんの名前がクラス別世界記録に掲載される。「朝食を楽しく取って、農作業をやって健康に生活する幸せに感謝しています」とコメント。なお、宮内さんの最優秀選手賞の受賞は4回目。

年齢は宮内さんより上の99歳の肥田一郎さん(宮崎)は男子最高齢者として表彰された。出場したのはM95・砲丸投と円盤投。初日の砲丸投は3投目に2m69で2位だった。第3日の円盤投はただ1人の出場で5m85を投げた。

「砲丸投は車で競技場に到着したとき、すでに競技が終わっていた。『仕方ないな』とあきらめたとき、競技役員の方が『投げてもいいですよ』と。ありがたかった。役員の方には感謝です。お礼を申し上げます」と恐縮の体

で。肥田さんは65歳からマスターズへ。「(マスターズ陸上は)私の生きがいです」。

### 「楽しく走った」と95歳のリンさん

女子最高齢者として表彰されたのは95歳のチェン・スエット・リンさん。香港から息子夫婦、娘、孫の5人でやってきた。「旅行を兼ねて。日本へは何回か来ているけど、群馬は初めて。日本での試合に出るのも初めてなの」と話す。

出場したのはW95・60m。レースでハプニングが——。「最初はゆっくり走っていたけど、『頑張っ』の声援に勇気もらい、ラストから力いっぱい頑張った」。ところが張り切りすぎてゴール後も止まらず、役員さんに

ストップを掛けられて、ようやく止まった。で、タイムの方は「何秒だった? 記録は別にして、いい思い出になった。とても楽しかった」とご機嫌だった。

「この緑豊かな群馬の地で」と切り出した地元・桐生市の大川宜晃さん(52歳)と貴子さん(50歳)夫妻による選手宣誓。「世界の仲間と大会に参加できることに感謝し、楽しく走って、跳んで、投げることを誓います」と続けて大きな拍手を受けた。

午後5時30分からの開会式の後、交流会が行われ、河村建夫日本マスターズ陸上競技連合名誉副会長(衆議院議員)も姿を見せた。室伏重信日本マスターズ連合副会長が乾杯の音頭をとった。また、横川浩日本陸連会長は第2日の午前中のみ出席した。



男子最高齢で表彰された99歳の肥田一郎さん(宮崎)砲丸投と円盤投に出場

### 2019地域対抗マスターズ駅伝開催のご案内

『麒麟のまちとっとり 2019地域対抗マスターズ駅伝』は11月23日(土・祝)に雨天決行で開催。大会事務局では参加を呼び掛けている。略歴要項は下記の通り。参加申し込み締め切りは11月5日必着。

▽11月23日(土・祝)雨天決行

▽会場 とりぎんバードスタジアム・発着

▽種目 地域対抗男子/女子の部・年齢別マスターズの部・フリーの部(5区間)

▽参加料(各1チーム) 地域対抗男子/女子マスターズの部、男子/女子年齢別マスターズは5000円、フリーの部8000円

※詳細は地域対抗マスターズ駅伝事務局(Tel&Fax0857-22-1559)へ。

主催:鳥取市・鳥取市教育委員会

主管:鳥取マスターズ陸上競技連盟、協力:(公社)日本マスターズ陸上競技連合、(一社)国際マスターズ競技連合

### 第40回記念国際・全日本マスターズ選手権大会 世界・日本大会記録樹立者(10月13、14日分)

男子				
種目	クラス	順位	記録	選手(所属)
○200m		1位	22秒70 (-2.9)	ヒリヤバニヤ・ダニエル(千葉)
○200m		2位	23秒44 (-2.9)	立尾 隆馬(千葉)
○1500m	M24-	1位	3分56秒08	茂木 洋晃(群馬)
○3000mSC		1位	9分40秒22	若菜 優雅(福島)
○5000mW		1位	22分14秒02	小林 建一(群馬)
○棒高跳	M25	1位	4m50	酒井 智朗(石川)
○1500m	M30	1位	4分03秒76	井上 陽介(北海道)
○110mH	M40	1位	14秒52 (-1.0)	福田 博之(兵庫)
○110mH	M45	1位	15秒63 (+0.6)	山岸 靖史(岐阜)
○1500m	M50	1位	4分17秒85	小西 亘(栃木)
○ハンマー投	M55	1位	47m47	松井 重徳(新潟)
○立五段跳	M65	1位	12m79	光宗 皇彦(岡山)
○立五段跳	M70	1位	12m19	田中正延(静岡)
○立五段跳	M75	1位	11m15	安井 毅央(群馬)
○棒高跳	M80	1位	2m30	野口 義雄(東京)
○立五段跳	M85	1位	8m78	浜崎 行雄(鹿児島)
■1500m	M90	1位	10分10秒88	宮内 義光(鹿児島)
○4×100mR		1位	48秒94	愛知
	M55		奥山 雄一・畠中 一起・杉浦 拓・都築 大	
○4×100mR		2位	49秒42	神奈川
	M75		杉崎 和彦・藤原 新・清水 仁志・長谷川 浩	
○4×100mR		1位	1分00秒67	岩手
	M80		藤原 耕作・佐藤 瑞夫・佐藤 二郎・似内 宥治	
○4×100mR		1位	1分10秒81	埼玉
	M80		佐藤 英夫・高崎駿一郎・田中 英夫・若地 政美	
○4×100mR		2位	1分12秒21	神奈川
	M80		益田 齊・富澤 茂・寺嶋 昭夫・一瀬 正治	

女子				
種目	クラス	順位	記録	選手(所属)
○200m		1位	25秒26 (-0.6)	松林 玲佳(高知)
○200m	W24-	2位	26秒40 (-0.6)	藤原 里帆(愛知)
○200m		3位	27秒61 (-0.6)	杉本 知佳(高知)
○1500m		1位	5分22秒46	小松 杏衣(青森)
○2000mSC	W25	1位	6分59秒54	大宅 楓(東京)
○棒高跳		1位	3m10	中里 華澄(栃木)
○100mH	W35	1位	15秒72 (+0.9)	松下 小織(静岡)
○200m		1位	27秒28 (-2.5)	酒井あおい(愛知)
○1500m	W45	1位	5分03秒61	水藤 孝子(東京)
○80mH	W50	1位	13秒19 (-0.6)	中尾 晴実(神奈川)
○200m	W55	1位	29秒04 (-0.5)	金子 葉子(愛知)
○立三段跳	W60	1位	10m69	木村 和代(愛知)
○60m		1位	9秒58 (+0.0)	松尾 真弓(神奈川)
○60m	W65	2位	9秒62 (+0.0)	中村 和代(岩手)
○60m		1位	11秒10 (-0.6)	中村 紀子(神奈川)
○200m		1位	39秒14 (-0.5)	中村 紀子(神奈川)
○1500m		1位	7分30秒96	中野 陽子(東京)
○走幅跳	W80	1位	2m87 (+0.3)	秋田ソノ子(奈良)
○走幅跳		2位	2m76 (+0.0)	倉津 緑(長崎)
○立五段跳		1位	8m56	秋田ソノ子(奈良)
○砲丸投		1位	8m48	玄蕃 昌子(神奈川)
○棒高跳	W24-	1位	2m65	岡本 朱音(茨城)

(■は世界新、○は日本新、○は大会新)